

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 23 日現在

機関番号：33917

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730267

研究課題名 (和文) 組織学習を創出する多様な雇用形態のマネジメント

研究課題名 (英文) Diversity management for organizational learning

研究代表者

安藤 史江 (Ando Fumie)

南山大学・大学院ビジネス研究科・准教授

研究者番号：70319292

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：

キーワード：組織学習、アンラーニング、解釈モード、事例研究、組織ルーティン

1. 研究計画の概要

本研究は、近年ますます多様な職種、働き方をしている人々で構成されるようになっていく組織において、組織としてのシナジー効果を引き出しながら、どのように目標とする組織学習プロセスを実現するのか、そのメカニズムの端緒を掴むことを目的としている。

そのため、まず組織学習論、人的資源管理論を始めとする、本研究関心の関連分野の先行研究の整理を行うとともに、現実のメカニズムを理解するために、インタビュー等に基づく詳細な事例分析を行うことにした。より具体的には、1年目は主として文献レビューを、2年目、3年目は主に事例分析を進めた。

また、4年目は、それら文献調査および複数の事例分析をもとに、さらなる追加調査を進めながら総合的に考察を深め、理論の一般化に努める計画である。

2. 研究の進捗状況

先行研究に関する文献調査の結果、組織を構成する多様な職種、働き方、価値観を持つ人々を効果的にマネジメントすることによる、創造性の向上、組織学習的な視点からみれば、より高次の組織学習が起こりうることに限らず、幅広いコンセンサスがあることが確認された。単一の組織内だけに限らず、知識移転のような組織間での学習に関しても、同様の効果が強く期待されていると理解された。

一方、複数の事例分析を行った結果、理論で期待されているような正の効果が観察されている組織は少ないこと、しかし理論でやはり指摘されているような負の効果というよりは、日常はあまり接点をもたないまま、

同じ組織に所属し、組織行動をとっていることが浮かび上がってきた。

同時に、調査対象としたそれらの組織には、何か1つの出来事を契機として組織学習が活発化しはじめた、という共通点を調査当初から見出していたのだが、変化の発生に関して改めて焦点をあてると、組織がいくつかの条件を満たすことによって、異なる働き方や価値観を持った人々の間でも、段階的に組織学習が深まり、期待するような成果をあげることも不可能ではないと考えられた。

現時点で指摘できる共通点の中には、「組織価値に関する原点回帰」と「組織アンラーニングの階層間ギャップの解消」などが挙げられるが、残り1年間でこうした考察の一層の深化が必要と考えている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

理由→文献調査や事例研究もまだ残すところはあつたものの、比較的予定どおりに進展しており、今年度はその成果をまとめたものの1つとして、著書も完成させる予定であるため。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は最終年度として4年間のまとめを行う年でもあるため、これまでの事例研究や文献調査から得られた知見をもとに、一般化、および理論的フレームワークの構築に努めたい。

したがって、追加的なインタビューおよび文献調査を行うとともに、その知見の頑強性を高めようとする手法の導入も、可能であれば試みたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①安藤史江・杉原浩志「組織はどのようにアンラーニングするのか?—社会福祉法人X会にみる、段階的な組織アンラーニング」『組織科学』44巻3号、5-20、査読あり

②安藤史江「組織学習論の組織観の変遷と展望」『経営学史学会編 経営学の展開と組織概念』17輯、104-118、2010、査読なし

③安藤史江・浦田健吾「『ジーニアス英和辞典』の成功と書籍電子化のうねりのなかで」『一橋ビジネスレビュー』57巻1号、106-121、2009、査読なし

④安藤史江「若手が「憂鬱な明日」を乗り越えるために」『産政研フォーラム』80号、25-30、2008、査読なし

[学会発表] (計1件)

①安藤史江「組織学習論の組織観の変遷と展望」経営学史学会第17回全国大会、2009年5月17日、中部大学(招待講演).

[図書] (計2件)

①安藤史江、新世社、『コア・テキスト人的資源管理』2008年、255p.

②安藤史江、中央経済社、『コラボレーション組織の経営学』2008年、13-36.

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

HPなどはこれから作成予定であるが、これまでの研究成果を活かし、またその知見を一層深めるために、本研究目的を拡張したものとして、組織学習に関する実務と理論の橋渡しをする研究会を、本年度より立ち上げたところである。